

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|---------|--------------------|----|----|----|----|----|--------|--------|--------------------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 家庭児童相談事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 相談・指導 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | ・家庭児童相談室設置規則 ・ハートフル相談員設置規則他 |
| | | | 03 | 02 | 01 | 03 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 市民の関与 | |
| | 1 児童福祉 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 | |
| ③家庭児童相談 | | | | | | | | 子ども未来室 | |
| 事業期間 | 継続（ 年度～ ） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | | |
|---|---|---|
| 【目的】 家庭児童福祉に関する相談指導を充実強化し、家庭における適正な児童養育その他家庭児童福祉の向上を図る。 | 【関連事業】 特になし | |
| 【期待される効果】 要保護児童対策地域協議会のもと関係機関との連携も強化されてきたが、地域社会の人間関係が希薄化し、孤立化しているため、専門性を持った相談員が子育て家庭に切れ目のない支援をすることで、児童福祉の健全化が図られる。 | 【対象者】 ・要支援・要保護児童 ・婦人相談者 | |
| 【全体概要】 家庭児童相談に対し、家庭児童相談員等による専門的な助言や指導を実施する。 要保護児童の早期発見や適切な保護を図るため、要保護児童対策地域協議会を活用し、関係機関との連携強化を推進する。 また、婦人相談・DV相談については、ハートフル相談員により、相談者の安全確保や自立に向けた支援を行う。 | 【特記事項】 特になし | |
| 【平成29年度 事業内容】 | 【平成30年度 事業内容】 | 【令和元年度 事業内容】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務関係研修受講・講演会の実施 ・発達相談の実施 ・児童虐待対策及びDV相談者の安全確保及び自立支援 ・要保護児童対策地域協議会開催 ・養育支援訪問事業の実施 ・子育て短期支援事業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務関係研修受講・講演会の実施 ・発達相談の実施 ・児童虐待対策及びDV相談者の安全確保及び自立支援 ・要保護児童対策地域協議会開催 ・養育支援訪問事業の実施 ・子育て短期支援事業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談業務関係研修受講・講演会の実施 ・発達相談の実施 ・児童虐待対策及びDV相談者の安全確保及び自立支援 ・要保護児童対策地域連絡協議会開催 ・養育支援訪問事業の実施 ・子育て短期支援事業の実施 |

■事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|--------|-------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 22 | 1,847 | 3,260 |
| | 県支出金 | 22 | 861 | 1,640 |
| | 自主財源 | 3,476 | 2,126 | 3,454 |
| 歳入計（千円） | | 3,520 | 4,834 | 8,354 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | | |
| | 07 賃金 | 1,331 | 1,332 | 1,792 |
| | 08 報償費 | 0 | 40 | 0 |
| | 11 需用費 | 5 | 5 | 7 |
| | 13 委託料 | 767 | 39 | 75 |
| | 20 扶助費 | 1,417 | 3,402 | 6,480 |
| | 23 償還金、利子及び割引料 | 0 | 16 | 0 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 3,520 | 4,834 | 8,354 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 72.81 予 62.05 |
| 職員人工数 | | 0.25 | 0.25 | 0.25 |
| 職員人件費（B） | | 1,926 | 1,880 | 1,976 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 5,446 | 6,714 | 10,330 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|----------|---|----|----|-------|-------|-------|
| 活動 指標 | 家庭児童相談 | 件 | 目標 | 90.00 | 90.00 | 90.00 |
| | 児童の保護者や保育所（園）、学校等からの相談の受付件数（新規） | | 実績 | 45.00 | 77.00 | 0.00 |
| | 要保護児童対策地域協議会開催 | 回 | 目標 | 15.00 | 15.00 | 15.00 |
| | 協議会の代表者会議・実務者会議・個別支援会議を開催し、要保護児童や要支援児童の早期発見や適切な保護を図るため関係機関と情報共有や連携対応した。 | | 実績 | 10.00 | 8.00 | 0.00 |
| 成果 指標 | 終結件数（家庭児童相談） | 件 | 目標 | 50.00 | 50.00 | 50.00 |
| | 助言指導や他機関へ繋ぐ等により、健全な環境を取り戻して終結した件数 | | 実績 | 7.00 | 58.00 | 0.00 |
| | 終結件数（家庭児童相談の内、要保護児童・要支援児童） | 件 | 目標 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| | 関係機関等と連携して、主訴解消等により終結した件数 | | 実績 | 3.00 | 14.00 | 0.00 |

評価の部（SEE）

| | | |
|-----------------|--|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 児童福祉政策に結びついている。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 児童の心身の健やかな成長及び家庭生活の安定確保のために必要な事業である。 |
| 有効性 評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 家庭ごとに複雑な問題を抱えているケースが多く、個々のケースに対応しているため、一定の支援策で成果が得られるものではない。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 市町村は子どもと家庭への必要な支援を行うこと、要保護児童を発見した場合の通告受理機関であることが法律で明確化されている。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 類似事業がないため、統廃合はなじまない。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 養育問題、DV等により施設利用等のケースがあるため、事業費の削減余地がない。また、ケースに対応する人材の確保を要するため人件費の削減余地がない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 相談業務という内容から必要性のある市民の方に限定される特性はある。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|--|----------------------------|--|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 家庭児童相談の内容も複雑化している中で、専門的な相談体制の強化が必要である。 |
| 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：幕内 浩之 |
| 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 家庭児童相談の内容が複雑化している中、要保護児童対策地域協議会を活用するなど、関係機関との連携・協力のもと体制強化に努め、支援の充実を図ること。 | | |
| 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：寺田 茂孝 |
| 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 関係機関との連携を十分に図り継続した支援を行う。 | | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|----|----|----|----|-------------|--------|----------|--|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 子ども・子育て支援新制度事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 委員会・審議会等 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | <input checked="" type="checkbox"/> 市子ども・子育て会議条例 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども・子育て支援法ほか |
| | | | 03 | 02 | 01 | 12 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 行政主体 | |
| | 2 少子化対策 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 | |
| ①子育て支援の充実 | | | | | | 保育担当係・児童担当係 | | | |
| 事業期間 | 継続（ 年度～ ） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|---|---|
| 【目的】 すべての子どもの良質な成育環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援することを目的として、質の高い学校教育・保育の一体的な提供、保育の量的拡充、家庭における養育支援に充実を図る。 | 【関連事業】 保育所事業、私立保育所事業、認定こども園事業他 |
| 【期待される効果】 本市における、子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境づくりをより一層進める。 | 【対象者】 子ども・子育て会議委員 |
| 【全体概要】 教育・保育の量的拡充、家庭における養育支援の充実を図り、すべての子どもの良質な生育環境を保障するとともに、子ども・子育て家庭を社会全体で支援する。 | 【特記事項】 特になし |
| 【平成29年度 事業内容】 ・子ども・子育て会議の開催 ・子ども・子育て支援事業計画の推進 | 【平成30年度 事業内容】 ○子ども・子育て会議の開催 ○子ども・子育て支援事業計画の推進 ○子ども・子育て支援事業計画（第2次）策定準備 |
| | 【令和元年度 事業内容】 ○子ども・子育て会議の開催 ○子ども・子育て支援事業計画の推進 ○子ども・子育て支援事業計画（第2次）策定 |

■事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------|--------|--------|--------|
| 財源 | 国庫支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 自主財源 | 1,669 | 4,530 | 4,651 |
| | 歳入計（千円） | 1,669 | 4,530 | 4,651 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 04 共済費 | 230 | 230 | 246 |
| | 07 賃金 | 1,439 | 1,492 | 1,581 |
| | 13 委託料 | 0 | 2,808 | 2,824 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | 1,669 | 4,530 | 4,651 | |
| （参考） | 当初予算額 | 1,731 | 当初予算額 | 4,600 |
| 職員人工数 | 15.00 | 0.12 | 0.12 | |
| 職員人件費（B） | 115,545 | 902 | 949 | |
| 総事業費（A）＋（B） | 117,214 | 5,432 | 5,600 | |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|------|-------------------------------|----|----|-------|-------|-------|
| 活動指標 | 子ども・子育て会議の開催 | 回 | 目標 | 2.00 | 3.00 | 4.00 |
| | 子ども・子育て会議の開催回数 | | 実績 | 1.00 | 3.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標 | 子ども・子育て会議の開催 | 回 | 目標 | 2.00 | 3.00 | 4.00 |
| | 子ども・子育て会議における意見聴取・調査・分析等の検討回数 | | 実績 | 1.00 | 3.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

評価の部 (SEE)

| | | |
|---------|--|---|
| 目的妥当性評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子ども・子育て支援新制度の施行に伴うものであり政策体系に結びつくものと考えられる。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 新制度施行に伴い、市町村の責務により実施することから事業を行うことは妥当である。 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子どもの幼児期の学校教育・保育の一般的な提供、保育の量的拡大等について成果が向上するものと考えられる。また、子育て環境の変化等に柔軟に対応することにより事業の見直し等検討が必要である。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 制度の実施主体が市であることから廃止・休止はできない。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 新制度の施行に伴う事業であるため統廃合はできない。 |
| 効率性評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 子ども・子育て会議開催に伴う委員報酬のため削減の余地がない。 |
| 公平性評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子ども・子育て会議出席委員に対する報酬のため、公平・公正である。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|--|----------------------------|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 市子ども・子育て支援事業計画に沿って平成27年度から事業を実施し、平成29年度は計画の中間見直しを行い、平成30年度はアンケート調査を実施。その結果を受け、計画策定に向け事業進捗を図る。 |
| 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：幕内 浩之 |
| 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 多様に変化する社会環境や情勢に対し、ニーズを適格に把握し方策を検討する。 | | |
| 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：寺田 茂孝 |
| 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 子育てに係るニーズに対応し子ども・子育て支援をするため関係機関との連携を図ること。 | | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|----|----|----|----|----|--------|--------|------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 地域の子育て支援事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 補助事業 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | 地域少子化対策強化交付金交付要綱 |
| | | | 03 | 02 | 01 | 13 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 市民主体 | |
| | 2 少子化対策 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 | |
| ①子育て支援の充実 | | | | | | | | 子ども未来室 | |
| 事業期間 | 継続（平成27年度～） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|--|--|
| 【目的】 地域社会の人間関係が希薄になっている状況の中、引きこもり育児が増加している。そのため、結婚から子育て時期までの地域の中で人と人の出会いや触れ合う場をつくる。地域こそが結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援ができることを目的とする。 | 【関連事業】 家庭児童相談事業 |
| 【期待される効果】 引きこもり育児や児童虐待の解消に繋がる。 | 【対象者】 妊婦から子育て家庭の保護者 |
| 【全体概要】 市民子育て支援員と市が協力して子育て支援策を検討、実施することで子育て世代の情報交換やリフレッシュする場を提供し、孤立化を防止、虐待予防に繋げる。また、子育てガイドブックの配布、HP「かすみっ湖」、子育て専用アプリにより子育てに関する情報を発信する。 | 【特記事項】 特になし |
| 【平成29年度 事業内容】 ・市民子育て支援員の活動支援 ・子育てガイドブックの配布やHP「かすみっ湖」、子育て専用アプリにより子育てに関する情報発信 | 【平成30年度 事業内容】 ・市民子育て支援員の活動支援 ・子育てガイドブックの配布やHP「かすみっ湖」、子育て専用アプリにより子育てに関する情報発信 |
| 【令和元年度 事業内容】 ・市民子育て支援員の活動支援 ・子育てガイドブックの配布やHP「かすみっ湖」、子育て専用アプリにより子育てに関する情報発信 | |

■ 事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------|--------|--------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 自主財源 | 637 | 1,269 | 756 |
| 歳入計（千円） | | 637 | 1,269 | 756 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 08 報償費 | 455 | 395 | 570 |
| | 11 需用費 | 9 | 701 | 10 |
| | 13 委託料 | 173 | 173 | 176 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 637 | 1,269 | 756 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 -40.4 予 -48.7 |
| 職員人工数 | | 0.65 | 0.65 | 0.65 |
| 職員人件費（B） | | 5,007 | 4,886 | 5,137 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 5,644 | 6,155 | 5,893 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|------|--|----|----|----------|----------|----------|
| 活動指標 | 子育て支援員によるイベント等活動数 | 回 | 目標 | 15.00 | 15.00 | 15.00 |
| | 活動のための会議及びイベント等の活動数 | | 実績 | 13.00 | 11.00 | 0.00 |
| | 子育て支援に係る情報更新数 | 件 | 目標 | 50.00 | 50.00 | 50.00 |
| | 子育てに必要な情報を関係機関から収集し、HP・専用アプリの情報を随時更新した件数 | | 実績 | 127.00 | 116.00 | 0.00 |
| 成果指標 | イベント参加者数 | 人 | 目標 | 50.00 | 50.00 | 50.00 |
| | イベント参加により参加者と子育て支援員との交流を通して情報交換の場を提供し、子育て支援の充実を図った | | 実績 | 72.00 | 38.00 | 0.00 |
| | 「かすみっ湖」HPアクセス数 | 件 | 目標 | 5,000.00 | 5,000.00 | 5,000.00 |
| | 子育てに関する情報を活用した件数 | | 実績 | 6,311.00 | 4,942.00 | 0.00 |

評価の部 (SEE)

| | | |
|---------|--|---|
| 目的妥当性評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子育て支援に連動する。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 HPやアプリによる情報提供や情報交換の場を提供することで、子育て中の親たちの孤立化を防ぎ、虐待防止につながると考えるため妥当である。 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子育て支援の施策のため、対象が限定されてしまう。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 HPやアプリによる子育て支援事業の情報が得られなくなってしまう。また、少数ではあるが、子育て世代の情報交換の場なくなる。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 統廃合できる事業がない。 |
| 効率性評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 HPやアプリの維持管理を委託しているため、削減の余地はない。 |
| 公平性評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 事業内容からすると、子育て世代に偏る傾向はある。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|--|----------------------------|--|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 令和元年度から健康づくり増進課で産後ケア担当ができたため、市民子育て支援員と看護師の妊婦訪問は平成30年度までで終了することとした。今後は、子育て世代のストレス解消、情報交換をしながら子育てが楽しく感じられるような場を提供し、虐待防止につなげていくこととする。 |
| 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者： 幕内 浩之 |
| 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 核家族の増加や地域社会での人間関係が希薄になっている状況の中、妊娠・出産・育児の切れ目のない支援のための体制強化を図る。 | | |
| 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者： 寺田 茂孝 |
| 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 関係機関との連携と適切な支援により、妊娠から子育てへと適切な支援を行う。 | | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|------------|--------------------|----|----|----|----|----|--------|--------|-------------------------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 母子父子福祉事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 補助事業 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | 事業費助成型補助金等交付要綱、高等職業訓練促進給付金等助成事業実施要綱 |
| | | | 03 | 02 | 02 | 06 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 行政の関与 | |
| | 1 児童福祉 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 | |
| ⑤ひとり親家庭の支援 | | | | | | | | 児童担当係 | |
| 事業期間 | 継続（ 年度～ ） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|--|---|
| 【目的】 母子・父子家庭及び寡婦の生活の安定と福祉の向上のため、補助金や給付金を支給することにより生活支援・就業支援等の一層の推進を図る。 | 【関連事業】 児童扶養手当事業 |
| 【期待される効果】 ひとり親家庭の自立支援の推進に繋がる。 | 【対象者】 ・ひとり親家庭の母又は父 ・市母子寡婦福祉会 |
| 【全体概要】 ・母子家庭及び寡婦家庭の生活の安定及び福祉の増進を図るため市母子寡婦福祉会に対し母子寡婦福祉会補助金を交付する。 ・ひとり親家庭の母又は父の就職の有利性を確保し、生活の安定に資する資格の取得を促進するため当該母又は父に対し高等職業訓練促進給付金及び修了支援給付金を支給する。 | 【特記事項】 ・母子寡婦福祉会補助金 補助率：事業費の2/3（事業費から他団体からの助成金を差引） 上限 75,000円 ・高等職業訓練促進給付金 支給月数：上限 36月 非課税世帯：月100,000円 それ以外：月70,500円 |
| 【平成29年度 事業内容】 ・市母子寡婦福祉会への補助金交付 ・高等職業訓練促進給付金及び修了支援給付金の支給 （看護師等の資格を取得するため、1年以上養成機関で修業する場合） | 【平成30年度 事業内容】 ・市母子寡婦福祉会への補助金交付 ・高等職業訓練促進給付金及び修了支援給付金の支給 （看護師等の資格を取得するため、1年以上養成機関で修業する場合） |
| | 【令和元年度 事業内容】 ・市母子寡婦福祉会への補助金交付 ・高等職業訓練促進給付金及び修了支援給付金の支給 （看護師等の資格を取得するため、1年以上養成機関で修業する場合） |

■事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|--------|--------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 4,324 | 4,575 | 2,520 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 自主財源 | 1,518 | -2,379 | 915 |
| 歳入計（千円） | | 5,842 | 2,196 | 3,435 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 75 | 75 | 75 |
| | 20 扶助費 | 5,767 | 2,121 | 3,360 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 5,842 | 2,196 | 3,435 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 56.42 予 -44.3 |
| 職員人工数 | | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
| 職員人件費（B） | | 1,541 | 1,504 | 1,581 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 7,383 | 3,700 | 5,016 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|----------|---|----|----|--------|--------|--------|
| 活動 指標 | 会議、研修、行事等の回数 | 回 | 目標 | 11.00 | 11.00 | 11.00 |
| | 母子寡婦福祉会が行う福祉向上のために行う会議、研修、行事等 | | 実績 | 14.00 | 14.00 | 0.00 |
| | 高等職業訓練促進給付金申請受付 受付件数 | 件 | 目標 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| | | | 実績 | 5.00 | 2.00 | 0.00 |
| 成果 指標 | 会議、研修、行事等の参加延人数 | 人 | 目標 | 160.00 | 160.00 | 160.00 |
| | 会議、研修、行事等に参加し会員相互の親睦を図り、同じ境遇である会員の悩みの解消や生きがいづくりにつなげる。 | | 実績 | 152.00 | 129.00 | 0.00 |
| | 高等職業訓練促進給付金支給 | 件 | 目標 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| | 給付金の支給を受けて要綱に定める資格を取得した件数 | | 実績 | 3.00 | 2.00 | 0.00 |

評価の部 (SEE)

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 母子・父子家庭及び寡婦の生活の安定と福祉の向上のため、補助金や給付金を支給することは、ひとり親家庭支援対策に結びつくものである。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 補助金や給付金を支給することは、ひとり親家庭の生活支援・就業支援等の推進を図るために妥当である。 |
| 有効性 評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。 | <input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 高等職業訓練促進給付金の要綱の対象資格及び支給期間が改正され、資格取得に有利となり成果が向上する。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 母子寡婦福祉会への補助金制度を廃止した場合は、会の活動が縮小される可能性がある。また、高等職業訓練促進給付金については、資格取得希望者の経済的負担が大きくなるため資格取得を断念せざるを得ない状況となり影響が発生する。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 類似事業がないため、統廃合・連携ができない。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 高等職業訓練促進給付金等支給者の生活の安定が図れなくなる。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 母子寡婦福祉会及びひとり親家庭が対象となっているため。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|----------|--|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 今後、1人でも多くの対象者が高等職業訓練促進給付金等の支給を受け資格取得することで、生活の安定が図れるようひとり親家庭の就業支援として事業を継続して実施していきたい。そのために、事業に関する周知の徹底（HP・広告）に務めたい。 また、母子寡婦福祉会の補助金についても、会員相互の生活向上のために継続して実施していきたい。 |
| | 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 幕内 浩之 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 対象世帯の生活の安定を図ることから、制度の周知を図る。 | |
| | 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 寺田 茂孝 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 一人親世帯の安定的な生活を支援するため制度の推進を図ること。 | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | |
|---------------|--------------------|----|----|----|----|----|--------------|------------------------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 事務事業名 | 私立保育所事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 補助事業 |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 政策経費 | 根拠法令 子ども・子育て支援法、市事業費助成型補助金等交付要綱 |
| | | | 03 | 02 | 04 | 04 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 行政主体 |
| | 1 児童福祉 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 |
| ①教育・保育サービスの充実 | | | | | | | | 保育担当係 |
| 事業期間 | 継続（ 年度～ ） | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|---|---|
| 【目的】 市内民間保育所・認定こども園が実施する子育て支援等事業に対して助成し、保護者からのニーズにきめ細かに対応する。 | 【関連事業】 子ども・子育て支援新制度事業 |
| 【期待される効果】 保護者からのニーズにきめ細かに対応する事業者を支援することで、子育て支援の充実化が図られる。 | 【対象者】 民間事業者 |
| 【全体概要】 子育て支援等事業を実施する市内の私立保育園・こども園に対して補助金を交付する。 | 【特記事項】 新制度において、一部の事業は経常経費として実施。 新規保育園3園参入のため、平成26年度より経費増加。 平成29～31年度にかけて民間施設整備予定あり。 ※民営化推進のための市単独補助事業を検討中 |
| 【平成29年度 事業内容】 地域子ども・子育て支援事業、給食実施費用の一部補助するなど保育ニーズにきめ細かに対応する。 | 【平成30年度 事業内容】 地域子ども・子育て支援事業、給食実施費用の一部補助するなど保育ニーズにきめ細かに対応する。 |
| 【令和元年度 事業内容】 地域子ども・子育て支援事業、給食実施費用の一部補助するなど保育ニーズにきめ細かに対応する。 | |

■ 事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|---------|---------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 54,471 | 174,942 | 42,579 |
| | 県支出金 | 11,145 | 20,199 | 69,483 |
| | 自主財源 | 40,397 | 16,559 | 72,977 |
| 歳入計（千円） | | 106,013 | 211,700 | 185,039 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 101,522 | 206,511 | 185,039 |
| | 23 償還金、利子及び割引料 | 4,491 | 5,189 | 0 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 106,013 | 211,700 | 185,039 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 -12.5 予 -47.0 |
| 職員人工数 | | 0.45 | 0.45 | 0.45 |
| 職員人件費（B） | | 3,467 | 3,383 | 3,557 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 109,480 | 215,083 | 188,596 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|----------|--|-----|----|-----------|-----------|-----------|
| 活動 指標 | 保育園入所申込数 | 人 | 目標 | 618.00 | 664.00 | 664.00 |
| | 私立保育園入所申込数 | | 実績 | 574.00 | 581.00 | 0.00 |
| | 地域子育て支援拠点事業を行う事業者等との調整会議数 | 回 | 目標 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| | 保育所その他の施設において保護者の児童の養育を支援する事業者と情報交換会議を行う | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果 指標 | 保育園入所児童数 | 人/年 | 目標 | 7,400.00 | 7,968.00 | 7,968.00 |
| | 私立保育園入所児童延べ人数 | | 実績 | 6,890.00 | 7,233.00 | 0.00 |
| | 地域子育て支援拠点施設の利用者数 | 人 | 目標 | 22,000.00 | 22,000.00 | 22,000.00 |
| | 地域子育て支援拠点施設を利用した親子（保護者と児童）の数 | | 実績 | 20,996.00 | 16,817.00 | 0.00 |

評価の部（SEE）

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 民間事業者のサービス拡充に対する補助であり、多様化する保育ニーズへの対応として民営化推進に寄与する。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 民間サービスの拡充は、民営化推進の基礎でもあり、財政措置上も有効な施策展開である。 |
| 有効性 評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 補助種目の拡充により増加が見込まれる。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 保育サービスにおける廃止は、利用者の選択肢において公立への限定化にも繋がるため、民営化推進にあまり好ましくない。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 民間サービスの拡充は市の方針に合致しているが、各事業において一定の要件を満たす必要性があることから、統廃合は困難である。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 （仕様や工法の適正化、市民の協力など） | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 国が推進する新たな制度下での子育て支援に寄与する事務であり、安定的な供給体制を構築する上では作業簡略は見込めない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 同内容事業であっても、各事業者において特色があり、その選択は利用希望者に委ねられていることから問題はない。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|----------|--|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 地域の実情を踏まえつつ、保育サービスの拡充に努めているものの、一方で各種要件を満たすための保育士等の確保が重要課題となっている。民営化推進及び保護者の選択肢拡大に当たり、事業者への支援策の検討が必要と思われる。 |
| | 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 幕内 浩之 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 利用者の保育ニーズに対応するよう、私立保育園等と連携をさらに努める。 | |
| | 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 寺田 茂孝 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 私立保育所等の健全な運営を図るための連携と支援・指導を行うこと。 | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|----|----|----|----|-------------|--------|--|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | |
| 事務事業名 | 子育て支援事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 給付（物品・現金） |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 ・すこやか保育応援事業実施要綱 ・チャイルドシート貸付規則 |
| | | | 03 | 02 | 07 | 03 | 政策経費 | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 行政主体 |
| | 2 少子化対策 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 |
| ①子育て支援の充実 | | | | | | 保育担当係・児童担当係 | | |
| 事業期間 | 継続（ 年度～ ） | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|---|--|
| 【目的】 子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。 | 【関連事業】 子ども・子育て支援新制度事業 |
| 【期待される効果】 多子世帯の経済的負担の軽減 | 【対象者】 子育て世帯 |
| 【全体概要】 ・多子世帯の経済的負担の軽減を図るため、すこやか保育応援事業を実施し、保育料の助成を行う。 ・自動車に乗車の乳幼児の安全確保のため、チャイルドシートの無料貸出を行う。 ・地域における育児の相互援助を推進するため、ファミリーサポートセンター事業を実施する。 | 【特記事項】 ・多子世帯軽減事業は平成27年度県単補助事業からの移行事業で、平成29年度より対象者拡充（子どもを3人以上持つ世帯に2人以上持つ世帯の一部を追加） ・チャイルドシート無料貸付事業は地域子育て創生事業からの移行事業 ・平成29年度からファミリーサポートセンター事業を委託 ・平成30年度から出産祝品贈呈事業の実施 |
| 【平成29年度 事業内容】 ・多子世帯保育料軽減事業の実施 要件を満たす子供の利用者負担額を無償化（一部減免） ・チャイルドシートの無料貸出 貸出期間：2年以内 1世帯1台 ・ファミリーサポートセンターの実施（委託） | 【平成30年度 事業内容】 ・多子世帯保育料軽減事業の実施 ・チャイルドシートの無料貸出 貸出期間：2年以内 1世帯1台 ・ファミリーサポートセンター事業の実施（委託） ・出産祝品贈呈事業の実施 |
| | 【令和元年度 事業内容】 ・多子世帯保育料軽減事業の実施 ・チャイルドシートの無料貸出 貸出期間：2年以内 1世帯1台 ・ファミリーサポートセンター事業の実施（委託） ・出産祝品贈呈事業の実施 |

■ 事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|--------|--------|-----------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 600 | 600 | 600 |
| | 県支出金 | 6,295 | 6,082 | 6,718 |
| | 自主財源 | 6,296 | 8,655 | 7,620 |
| 歳入計（千円） | | 13,191 | 15,337 | 14,938 |
| 歳出 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 08 報償費 | 0 | 877 | 0 |
| | 11 需用費 | 0 | 19 | 900 |
| | 13 委託料 | 1,800 | 1,800 | 1,800 |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 11,391 | 12,641 | 12,238 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 13,191 | 15,337 | 14,938 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 -2.60 予 9.30 |
| 職員人工数 | | 0.40 | 0.35 | 0.35 |
| 職員人件費（B） | | 3,082 | 2,631 | 2,766 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 16,273 | 17,968 | 17,704 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|----------|------------------------------|----|----|-------|-------|-------|
| 活動 指標 | 多子世帯保育料軽減事業助成金申請受付 申請受付件数 | 件 | 目標 | 45.00 | 45.00 | 45.00 |
| | | | 実績 | 64.00 | 70.00 | 0.00 |
| | チャイルドシートの貸出申請受付 申請受付件数 | 件 | 目標 | 50.00 | 50.00 | 50.00 |
| | | | 実績 | 48.00 | 45.00 | 0.00 |
| 成果 指標 | 多子世帯保育料軽減事業助成金支給 助成件数 | 件 | 目標 | 45.00 | 45.00 | 45.00 |
| | | | 実績 | 63.00 | 70.00 | 0.00 |
| | チャイルドシート貸出 貸出台数 | 台 | 目標 | 50.00 | 50.00 | 50.00 |
| | | | 実績 | 48.00 | 45.00 | 0.00 |

評価の部 (SEE)

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 昨今の社会情勢を踏まえると、経済的負担軽減を軸とする支援は必須である。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 少子化問題に係る課題改善に向けた行政関与は必須である。 |
| 有効性 評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 該当者の増加が前提である。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 経済的負担に対する不安解消が少子化問題の対策の一つである。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 多子世帯の定義統一が必要である。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 該当者は少数であるが、必要最低限の処理としており、これ以上の削減は事務上支障をきたす。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 多子世帯の定義統一が必要ではあるが、少子化対策・子育て支援を図るうえで、政策的位置付けにおいて、適切な水準と考える。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|--|----------------------------|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 子育て支援事業として、単に保護者の経済的負担軽減を図るための給付措置ではなく、安心して子どもを育む環境づくりを目指し、国の動向も踏まえた要件の見直しなど、効率・効果的な事業展開が必要である。 |
| 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：幕内 浩之 |
| 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 少子化が進む中、子育て世代の経済的負担軽減等の継続と充実を図る。 | | |
| 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） | | 記入者：寺田 茂孝 |
| 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 子育て世代の経済的負担を軽減し、子育てしやすい環境づくりのため支援の継続を図ること。 | | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|---------------|--------------------|----|----|----|----|----|--------|-----------|--------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 幼稚園教育振興事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 給付（物品・現金） | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | 市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱 |
| | | | 10 | 01 | 03 | 26 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 行政主体 | |
| | 1 児童福祉 | | | | | | 担当課係等 | 子ども家庭課 | |
| ①教育・保育サービスの充実 | | | | | | | | 保育担当係 | |
| 事業期間 | 継続（年度～） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|---|--|
| 【目的】 幼稚園学費について補助することで園児保護者の負担を軽減し、幼稚園教育の充実を図る。 | 【関連事業】 子ども・子育て支援新制度事業 |
| 【期待される効果】 私立幼稚園に就園する児童の保護者の負担軽減及び保育園との負担格差の是正。 | 【対象者】 子ども・子育て支援制度に移行しない幼稚園に通園する児童の保護者 |
| 【全体概要】 幼稚園学費について補助することで、園児保護者の負担を軽減し、もって幼児教育の充実を図る。 | 【特記事項】 保育・教育を一体的に捉える、子ども・子育て支援新制度に向け、平成26年度より所管替えにより、子ども家庭課にて事業実施。 ※私立幼稚園保護者助成金（市単）は、事業評価内容を踏まえ、平成29年度で廃止。 |
| 【平成29年度 事業内容】 私立幼稚園に就園する児童の保護者の負担軽減を図る。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金（国補） ・私立幼稚園保護者助成金（市単） ※移行状況により、経常経費対応 | 【平成30年度 事業内容】 私立幼稚園に就園する児童の保護者の負担軽減を図る。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金（国補） ・私立幼稚園保護者助成金（市単） ※移行状況により、経常経費対応 |
| 【令和元年度 事業内容】 私立幼稚園に就園する児童の保護者の負担軽減を図る。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金（国補） ・私立幼稚園保護者助成金（市単） ※移行状況により、経常経費対応 | |

■事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|--------|--------|-----------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 305 | 616 | 616 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 自主財源 | 944 | 199 | 1,232 |
| 歳入計（千円） | | 1,249 | 815 | 1,848 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 1,249 | 815 | 1,848 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 1,249 | 815 | 1,848 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 126.7 予 0.00 |
| 職員人工数 | | 0.35 | 0.35 | 0.35 |
| 職員人件費（B） | | 2,696 | 2,631 | 2,766 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 3,945 | 3,446 | 4,614 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|----------|--------------|----|----|-------|-------|-------|
| 活動 指標 | 補助件数 | 人 | 目標 | 10.00 | 10.00 | 10.00 |
| | 就園奨励費を受ける児童数 | | 実績 | 7.00 | 6.00 | 0.00 |
| | 助成件数 | 世帯 | 目標 | 10.00 | 10.00 | 0.00 |
| | 保護者助成を受ける世帯数 | | 実績 | 8.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果 指標 | 補助件数 | 人 | 目標 | 10.00 | 10.00 | 10.00 |
| | 就園奨励費を受ける児童数 | | 実績 | 7.00 | 6.00 | 0.00 |
| | 助成件数 | 世帯 | 目標 | 10.00 | 10.00 | 0.00 |
| | 保護者助成を受ける世帯数 | | 実績 | 8.00 | 0.00 | 0.00 |

評価の部 (SEE)

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input type="checkbox"/> 結びついている <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 新制度に移行しない幼稚園における格差是正の暫定措置であることから、国の動向と並行した施策展開が必要である。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 幼稚園への就園奨励は待機児童解消にも寄与することから、必須である。 |
| 有効性 評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 国の動向により、対象施設は減少となる見込みだが、移行先事業の経費は今後増加が見込まれる。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input type="checkbox"/> 影響がある <input checked="" type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 対象施設がすべて新制度へ移行すれば、利用料金は一律となるため、廃止となっても影響はない。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 国の動向により、新制度移行による統廃合は可能である。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など) | <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 国の動向により、対象施設は減少となる見込みだが、移行先事業の経費は今後増加が見込まれる。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。 | <input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 新制度に移行しない幼稚園における格差是正の暫定措置であることから、国の動向と並行した施策展開が必要である。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|----------|---|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 市内に該当施設がないこと、利用者が少数であること、市内事業者における子育て支援策で求められる利便性は確保可能なこと等の実情を鑑みると廃止の方向性が妥当である。国財源が伴う事業については、引き続き動向注視のうえでの検討課題と考える。 |
| | 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者：幕内 浩之 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 子育て支援に係る国の動向を見ながら継続する。 | |
| | 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者：寺田 茂孝 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 幼稚園児の子育て支援として、保護者の負担軽減を図る。 | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------------|----|----|----|----|------|--------|----------------|--------------------------------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 大塚児童館・ふれあいセンター管理運営事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 補助事業 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | 児童福祉法関係 かすみがうら市事業費助成型補助金等交付 |
| | | | 03 | 02 | 05 | 03 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 市民の関与 | |
| | 2 少子化対策 | | | | | | 担当課係等 | 大塚児童館・ふれあいセンター | |
| ①子育て支援の充実 | | | | | | 児童担当 | | | |
| 事業期間 | 継続（平成30年度～） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | |
|--|---|
| 【目的】 母親の自主的な研修を通し、会員相互の親睦を図り、母親の教養を高めることにより、児童の健全育成と児童の福祉増進を図る。 | 【関連事業】 大塚児童館・ふれあいセンター管理運営事業（経常） |
| 【期待される効果】 児童館活動の発達充実に寄与され、継続した地域活動が行われること。また、母親クラブの会員だけの活動ではなく児童館を活動拠点とし、会員以外の親子も含め、地域子育て支援の連携づくりの中核団体の役割を担う。 | 【対象者】 母親クラブ会員 |
| 【全体概要】 母親の自主的な研修を通し、会員相互の親睦を図り、母親の教養を高めることにより、児童の健全育成と児童の福祉増進を図る。 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動 | 【特記事項】 児童の健全育成と児童の福祉増進を図り、児童館活動の発展・充実に努める。 |
| 【平成29年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動 | 【平成30年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動 |
| 【令和元年度 事業内容】 ・親子及び世代間の交流・文化活動 ・児童養育に関する研修活動 ・児童の事故防止に関する活動 ・その他、児童福祉の向上に寄与する活動 | |

■ 事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|--------|--------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | 自主財源 | 294 | 240 | 300 |
| 歳入計（千円） | | 294 | 240 | 300 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 294 | 240 | 300 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 294 | 240 | 300 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 25.00 予 -21.0 |
| 職員人工数 | | 0.50 | 0.30 | 0.30 |
| 職員人件費（B） | | 3,852 | 2,256 | 2,371 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 4,146 | 2,496 | 2,671 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|------|---|-----|----|----------|----------|--------|
| 活動指標 | 母親クラブ事業実施回数 | 回/年 | 目標 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
| | ふれあい交流会・クリスマス会・視察研修・花植え・児童館行事手伝い・社会福祉施設等での公演（パネルシアター・ハンドベル・リズムあそび）他 | | 実績 | 140.00 | 88.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標 | 母親クラブ事業参加人数 | 人/年 | 目標 | 950.00 | 950.00 | 950.00 |
| | ふれあい交流会・クリスマス会・視察研修・花植え・児童館行事手伝い・社会福祉施設等での公演（パネルシアター・ハンドベル・リズムあそび）他 | | 実績 | 1,644.00 | 1,005.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

評価の部（SEE）

| | | |
|---------|--|---|
| 目的妥当性評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 総合計画や子ども・子育て支援事業計画の地域における子育て政策の展開から、適正な管理を図るため。 |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 市民と一体となった子育て支援やまちづくりを進めていくための団体への事業であり、住民サービス向上に直結するために不可欠である。 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。 | <input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 各種イベント活動の発展や、地域づくり活動におけるの事業成果はみられるが、今後も地域状況に合わせた活動内容の充実が必要である。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 地域連帯意識や人間関係が希薄化し地域との連携が弱くなり、母親の教養や児童の福祉増進低下につながる。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 類似事業がない。 |
| 効率性評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。（仕様や工法の適正化、市民の協力など） | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 当事業運営は、地域組織活動や関係機関との連携に必要な事業であり、継続的・安定的に運営することが望ましいことから、削減する余地はない。 |
| 公平性評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。公平・公正になっているか。 | <input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 地域の母親や子育て世代の事業であり、事業費に対して現在の補助金が妥当かどうか、活動内容の見直しや拡充を検証する必要がある。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|----------|--|---|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 市等の補助を受け自主的なボランティア活動を通して、今後も継続して家庭・地域・行政が協働により、子育てにやさしいまちづくり活動に努めていく。 |
| | 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者者：幕内 浩之 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 継続して事業推進に努める。 | |
| | 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者者：寺田 茂孝 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 団体との連携を図り充実した事業の実施により児童館の健全な運営を図ること。 | |

事務事業評価シート

| | | | | | | | | | |
|--------------|--------------------|----|----|----|----|------|--------|----------------|---------|
| 計画対象年度 | 平成30年度 | | | | | | | | |
| 事務事業名 | 放課後児童健全育成事業（政策） | | | | | | 事業類型 | 補助事業 | |
| 予算科目 | 会計 | 01 | 款 | 項 | 目 | 事業 | 要求区分 | 根拠法令 | 児童福祉法関係 |
| | | | 03 | 02 | 06 | 03 | 政策経費 | | |
| 総合計画体系 | 5. 未来を担う若者を育むまちづくり | | | | | | 総合計画対象 | 対象 | |
| | (1) 次世代の育成支援 | | | | | | 市民協働 | 市民の関与 | |
| | 1 児童福祉 | | | | | | 担当課係等 | 大塚児童館・ふれあいセンター | |
| ②放課後児童クラブの充実 | | | | | | 児童担当 | | | |
| 事業期間 | 継続（年度～） | | | | | | | | |

現状把握の部 (D0)

| | | |
|---|---|---|
| 【目的】 児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している、小学生の児童（1～6年生）に対し、授業の終了後及び、学校休業日に学校の余裕教室や児童館を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。 | 【関連事業】 放課後児童健全育成事業（経常） | |
| 【期待される効果】 共働き世帯の増加等を背景に放課後児童クラブの利用者が増加していることから、保護者への保育ニーズ対応が期待される。 | 【対象者】 小学生の児童（1～6年生） | |
| 【全体概要】 児童福祉法第6条の3第2項の規程に基づき、保護者の就労などにより、日中留守になる家庭の児童に遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。対象は、小学生の児童（1～6年生）。現在、公設18箇所、民設7箇所、計25箇所で開催。平成30年度は、民設1箇所追加。＜放課後児童健全育成事業費：国補助金1/3県補助金1/3市1/3＞ | 【特記事項】 新制度施行により、地域のニーズに合わせ、放課後児童クラブの必要数の確保のため、施設等の量の拡充や職員の資質の向上を図る。 | |
| 【平成29年度 事業内容】 | 【平成30年度 事業内容】 | 【令和元年度 事業内容】 |
| <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童の健全育成上必要な活動 学校や団体との連絡調整等 児童クラブの環境整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童の健全育成上必要な活動 学校や団体との連絡調整等 児童クラブの環境整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童の健全育成上必要な活動 学校や団体との連絡調整等 児童クラブの環境整備等 |

■事業費

| | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|-------------|----------------|---------|---------|------------------------|
| 財源 | 国庫支出金 | 32,784 | 84,693 | 19,434 |
| | 県支出金 | 31,813 | 48,721 | 19,434 |
| | 自主財源 | -17,602 | -8,233 | 19,436 |
| 歳入計（千円） | | 46,995 | 125,181 | 58,304 |
| 歳出内訳 | 節（番号＋名称） | 金額（千円） | 金額（千円） | 金額（千円） |
| | 19 負担金、補助及び交付金 | 46,995 | 125,181 | 58,304 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 歳出計（千円）（A） | | 46,995 | 125,181 | 58,304 |
| （参考） | | 当初予算額 | 当初予算額 | 伸び率(%) 決 -53.4 予 16.13 |
| 職員人工数 | | 0.70 | 0.70 | 0.70 |
| 職員人件費（B） | | 5,393 | 5,262 | 5,533 |
| 総事業費（A）＋（B） | | 52,388 | 130,443 | 63,837 |

■指標

| 種類 | 指標名 | 単位 | | H29年度 | H30年度 | R01年度 |
|------|-----------------------------|-----|----|--------|--------|--------|
| 活動指標 | 放課後児童クラブ開設日数 | 日/年 | 目標 | 250.00 | 250.00 | 250.00 |
| | 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）開設基準日数 | | 実績 | 252.00 | 254.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標 | 放課後児童クラブ入会者数 | 人/年 | 目標 | 570.00 | 570.00 | 570.00 |
| | 各放課後児童クラブ年間入会者数（年度末） | | 実績 | 570.00 | 597.00 | 0.00 |
| | | | 目標 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | | | 実績 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

評価の部（SEE）

| | | |
|---------|--|--|
| 目的妥当性評価 | ①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 総合計画の適正な管理を図るため |
| | ②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は。税金を投入して事業を行うことが妥当か。 | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 児童福祉法に基づいて行う事業であり、住民サービス向上に直結するため不可欠である。 |
| 有効性評価 | ③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。 | <input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 必要な事業であり、新制度施行やニーズに合わせて実施しているが、今後も状況に合わせた検証・整備等は必要である。 |
| | ④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。 | <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 【理由】 児童福祉法に基づいて市で行っている事業であり、事業計画による推進のため、廃止となると子育てしやすい環境づくりの影響を及ぼす。 |
| | ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる 【理由】 類似事業がない |
| 効率性評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。（仕様や工法の適正化、市民の協力など） | <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある 【理由】 当事業運営については、子どもの福祉や地域の実情により必要な事業であり、継続的・安定的に運営することが望ましいことから、削除する余地はない。 |
| 公平性評価 | ⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。公平・公正になっているか。 | <input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある 【理由】 子育て世帯への事業であり、受益者負担について検証が必要である。 |

今後の改善方策や方向性

| | | |
|----------|--|--|
| 改善方策・方向性 | 上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入 | 今後も待機児童が発生しないよう、関係各課との調整や民間事業者との連携に努める。また、施設・設備の安全確保と支援員の資質向上のため、研修会等を実施し学校との連携を図っていく。 |
| | 1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 幕内 浩之 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 利用者のニーズを把握し、健全な運営を推進する。 | |
| | 2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持） 記者： 寺田 茂孝 担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 社会環境の変化に伴い増加する利用者の保育ニーズに対応するため、学校との連携を図り健全な運営に努めること。 | |